

研究だより



せらにし小学校研究部

令和元年 9月18日

No.6

9月12日の授業研究（第2学年 算数科「計算のしかたをくふうしよう」）を振り返るとともに、今後の方向性について確認したいと思います。

☆東部教育事務所 藤本指導主事より

- ・「手立て」とは、子どもの引き出しを増やしてあげること。
- ・単元の工夫により、学習意欲の向上を図る。
→ミッション的に「今日の学習で〇〇ができる。」と感じられるものがあるのも良い。
- ・導入で分かったことなどを話す際、なぜそれが「キーワード」になるのかを考えさせると良い。
- ・学習指導要領解説算数編P. 8
「問題解決の過程において、よりよい解法に洗練させていくための意見の交流や議論など対話的な学びを適宜取り入れていくことが必要であるが、その際にはあらかじめ自己の考えをもち、それを意識した上で、主体的に取り組むようにし、深い学びを実現することが求められる。」
- ・「比べながら聞く」ための方法
話を聞いて同じところに線を引かせる。→引いていないところは考えが違うところ。
- ・個別の支援表の活かし方
実態を参考にすることで手立てが見つかる。
つまずきの手立てを増やす。
実態から、何が有効かを考えること。

☆世羅町教育委員会 松本指導主事より

①学力分析に基く授業づくり

- ・個のつまずきに応じて
- ・ペアトークを何のために行うのか、視点を明確に。
- ・書けない児童には、言葉で言わせる。→その子に応じたゴールと支援を。
- ・子どもたちのつぶやきをや発言を拾いながらつないでいくことで、めあてに迫るように。
→深い学びにつながる。

②町教委から期待すること

- ・分析をしっかり
○年の単元ではこういうつまずきがある。
↓
だから、こういう手立てを行った。
- ・実態から要因を分析して、効果的な手立てを増やすように。

☆授業評価表から

【成果】

- ・視覚化として、文章を区切って短く提示していて良かった。
- ・子どもたちの学びに向かう姿勢が良かった。
- ・T2の役割が良かった。

【今後へ向けて】

- ・本時の授業で、「何を学ぶのか」「何を考えるのか」を子どもが理解しておくことが大事。
- ・ねらいを達成するために、発問を工夫していくことが大事。
- ・ねらいを達成するために、子どもの意見をどのように取り上げ、切り返していくか。



☆本校の「視覚化」「焦点化」「共有化」を次のように整理してみました。

「視覚化」 見えないものを「見える化」し、児童のイメージをわきやすくさせる。

例) ICTの活用, 場面絵, 図や表・グラフ等, 問題提示の工夫
ヒントカード, 既習事項の掲示

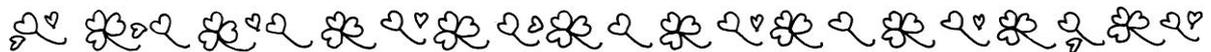
「焦点化」 授業を「シンプル」にする。

例) せらにし授業スタイル めあての確認, ゴールイメージをもたせる

「共有化」 互いの考えを伝え合ったり, 確認させたりする。

「できる」児童には, 自分の意見を深めさせる。
理解に不安がある児童には, 自分の意見に足りない部分を補わせる。

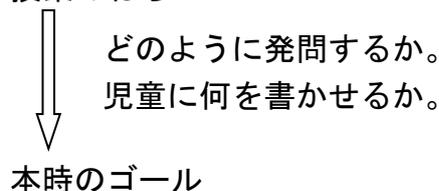
例) キーワードの確認, ペア・グループトーク・集団での練り合い,
活動の視点の確認, 友達の考えを言わせる
電子黒板やまなボードの活用, まとめ, 振り返り



第4回の授業研究を受け, 今後の授業で大事にしていきたいことを確認しましょう。

○研究協議後, 指導主事さんと話をした中から2つ紹介します。

- ・日頃の授業から, 「情報が足りない。」「知らない情報がある。」と児童が考えることのできる問題をやっていきましょう。
- ・授業のねらい



毎時間, やっておられると思います。改めて確認させてください。

1時間の授業のねらいとゴールを設定し, ゴールに向かうために何を発問し, 何を考えさせるのかを, わたしたち教師自身をもっておくことは, 授業を行う上で大事なことです。

※なぜ授業改善を行うのか, なぜ本校で統一した授業スタイルがあるのか, それは全て児童のためです。児童の学力向上のためにがんばっていきましょう。